

「きっと、こうだろう。」 を変えていく。

株式会社 氏田組の取り組み

「建築・土木の仕事は男性向き」「現場で働くのは男性が中心」。そんなイメージを持っていませんか？ 株式会社氏田組では、建築・土木の両部門で女性の積極的な採用を進めています。性別による思い込みにとらわれず、一人ひとりの希望や得意なことに目を向けると、働き方や活躍の可能性が広がります。建築・土木の現場で働く山田さんと大平さん、会社を経営する波瀾社長に、仕事の中で感じてきた「当たり前」や、誰もが活躍できる職場に向けた変化について聞きました。



現場で活躍する山田さん▲



●株式会社氏田組
代表取締役社長
なみがたともりのり
波瀾智則さん



●建築部
部長
やまだようこ
山田容子さん



●営業管理部 主任
建設ディレクター
おおひら ゆかり
大平悠佳梨さん

——入社時と比べ、仕事への向き合い方や職場環境に変化はありますか。

波瀾 私が11年前にこの会社に来たときは、女性の正社員は2人だけでした。現在は32人のうち9人が女性で、そのうち6人が現場で活躍しています。人手不足という背景もありますが、女性も現場の大切な戦力として活躍できる会社でありたいと考えていました。「男だから」「女だから」と決めつけず、一人ひとりの適性や意欲を大切に、それぞれが力を発揮できる環境づくりを意識しています。性別に関係なく、誰もが活躍できることが会社の力になると感じています。

山田 入社した頃は、「建設業の現場で働くのは男性」というイメージがありました。私は事務職から現場の仕事に移りましたが、実際にやってみると、経験がなくても、周りに教えてもらいながら覚えていけることが分かりました。

大平 現場の仕事に対して、当初は不安がありました。最初は分からないことばかりでしたが、上司が一つひとつ教えてくれたことで、少しずつできることが増え、次の仕事にも挑戦できるようになりました。

バックオフィスから現場を支える大平さん▼



——最後に、これからどんな職場を目指しますか。

山田 どの仕事も最初から完璧にできる人はいません。分からないところから始めて、みんなで支え合い、教え合いながら身につけていくものだと思います。やる気がある人が、安心して挑戦できる職場でありたいです。

大平 「自分には無理」と決める前に、一度やってみる。その一歩を周りが支えてくれる環境があれば、できることはもっと広がると思います。

波瀾 現場を管理する人は男性と決めつける必要はありません。大切なのは、その人が何をしたいのか、何ができるのかを見ること。可能性を感じたら、会社も経営者も考え方を換え、挑戦できる環境をつくっていく。そうしながら、一人ひとりが力を発揮できる会社にしていきます。

大平 環境が整うことで、「やってみよう」と思える人も増えると思います。私自身、最初は不安でしたが、教えてもらえる環境があったから今があります。次のステップに挑戦できることは、大きな支えになります。

——挑戦を支えるために、環境面で変えたことはありますか。

波瀾 働く人が安心して力を発揮できる環境を整えることも、会社の役割だと考えています。女性が安心して活躍できるよう、特別休暇などの制度を整えるだけでなく、女性専用の休憩スペースを設けたり、現場のトイレを男女別にしたりと、働く環境も見直してきました。



気付いた、その先へ 「本当に、そうかな？」を映画でも。

映画「ズートピア」では、「ウサギは警察官には向いていない」「キツネは危険な動物だ」というように、動物の種類によって相手を判断する「決めつけ」が描かれています。これは「男だから・女だから」という性別による思い込みとは異なりますが、「〇〇だから、きっとこうだろう」と、相手の属性だけで判断してしまうという点では共通しています。

私たちも、性別だけでなく、「若いから」「高齢だから」「この仕事だから」「この見た目だから」など、さまざまな情報から相手を判断することがあります。だからこそ、「本当にそうかな？」と、一度立ち止まって考えることが大切です。

映画を楽しみながら、自分の中にある「こうだろう」に気づき、相手を見る視点を広げてみましょう。



公開10周年！

映画「ズートピア」上映会

申込みはこちら▶



日時 12月12日(出)10:30～12:30(10:00入場)

定員 600人（未就学児は保護者同伴）

その他 無料、一時保育サービスあり

会場 燕市文化会館

申込 12月10日(休)までに申込フォームにて
(定員に達し次第締切)

問合せ 地域振興課 協働推進係 ☎77・8361